

# 「公私年金の新しい連携」

駒村 康平

慶應義塾大学教授

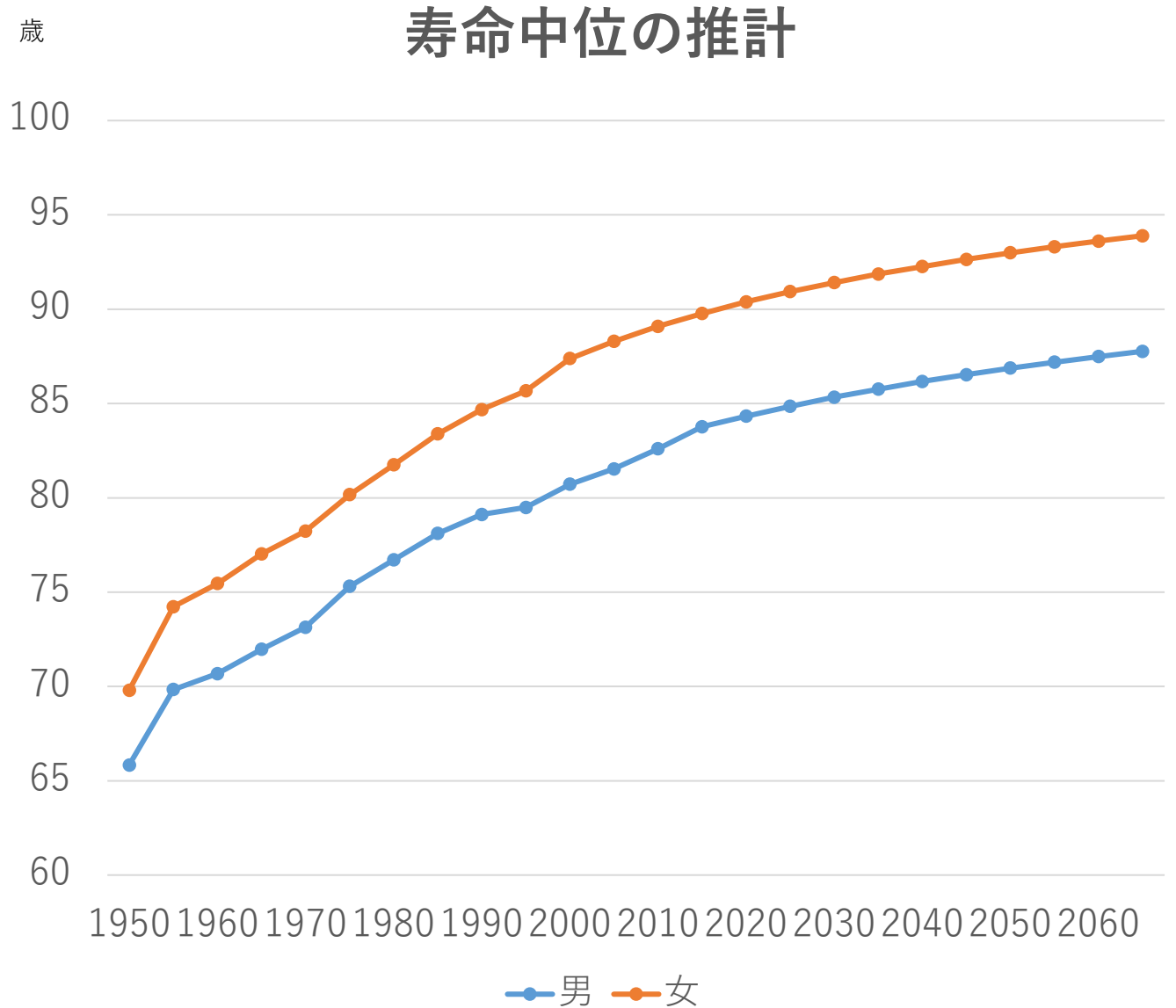
(ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター長)

# 人生90年時代の到来

1：寿命中位の推計（男性87.8歳（+4）、女性93.9歳（+4.1））

2：90歳生存率：男性40.9%、女性の66.7%）

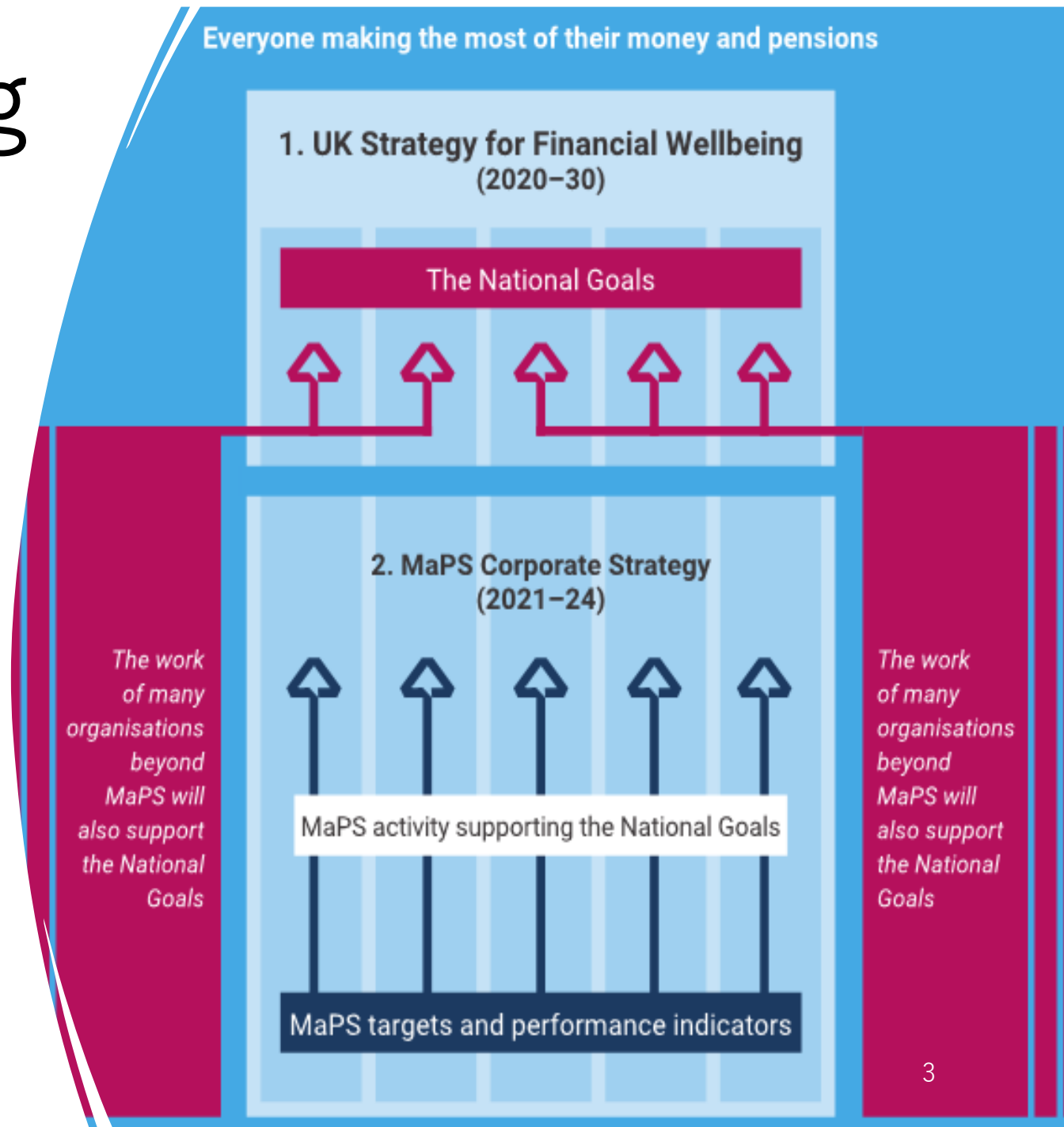
3：長い老後と認知機能の低下リスク



# Financial Wellbeing

- 1：生涯にわたって安心して経済活動ができ、人生を楽しむことができるようにする。
- 2：英国のFinancial Wellbeingに向けての国家戦略
- 3：マネーアンドペンションサービス（MaPS）
- 出典：

<https://moneyandpensionsservice.org.uk/wp-content/uploads/2020/01/UK-Strategy-for-Financial-Wellbeing-2020-2030-Money-and-Pensions-Service.pdf>



# 生涯にわたる家計管理・資産活用への支援 政府によるサポート

## 英国Money & Pensions Serviceの「健全な家計のための英国の戦略2020-2030」の構造

### 健全な家計のための英国の戦略2020-2030

信念： 家計の健康な国/国民は、個人・地域社会・産業界そして経済にとってよいものである。

↓  
ビジョン： すべての人々が、そのお金と年金を最大限に活用できるようにする。

↓  
変革のための共有された課題：5つの分野で他の機関と連携して大規模な変革を促進する

|                             |    | 家計の基礎                                    | 貯蓄をする国民                                         | 融資を管理する                                     | 債務相談の強化                                                  | 未来のために                                  |
|-----------------------------|----|------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 2030年の国家的目標                 | 対象 | 子ども、若者とその親たち                             | 勤労世代の「もがき」「搾られている」人々                            | 食べ物や勘定のためにしばしばクレジットを使う人                     | 債務相談が必要な人々                                               | すべての大人                                  |
|                             | 目標 | 200万人多く<br>有益な家計教育を受ける子どもと若者             | 200万人多く<br>勤労世代の「もがき」「搾られている」人々で定期的に貯蓄する人       | 200万人少く<br>食品や勘定のためにしばしばクレジットを使用する人         | 200万人多く<br>債務相談を受けられる人                                   | 500万人多く<br>将来のための計画づくりに資する知識を理解している人    |
|                             | 成果 | 子どもと若者が有益な家計教育を受け、そのお金と年金を最大限に活用できる大人になる | 人々が貯蓄の習慣を確立し、緊急事態用の現金の備えを設け、家計の将来に対する明確なビジョンを持つ | より多くの人が利用可能なクレジットにアクセスし、借金についての情報をもとに選択できる。 | 人々が必要な時に質の高い（強力で早期の関与やニードに合う資金・供給・サービス）債務相談にアクセスして助言を得る。 | 人々が自らの将来にかかわり、後の生活のため/中で情報を得て決断する力を得ている |
| ゴールの達成のため大小やセクターを問わず実施組織を支援 |    | Cross-cutting lens: ジェンダー                |                                                 |                                             |                                                          |                                         |
|                             |    | Cross-cutting lens: メンタルヘルス              |                                                 |                                             |                                                          |                                         |

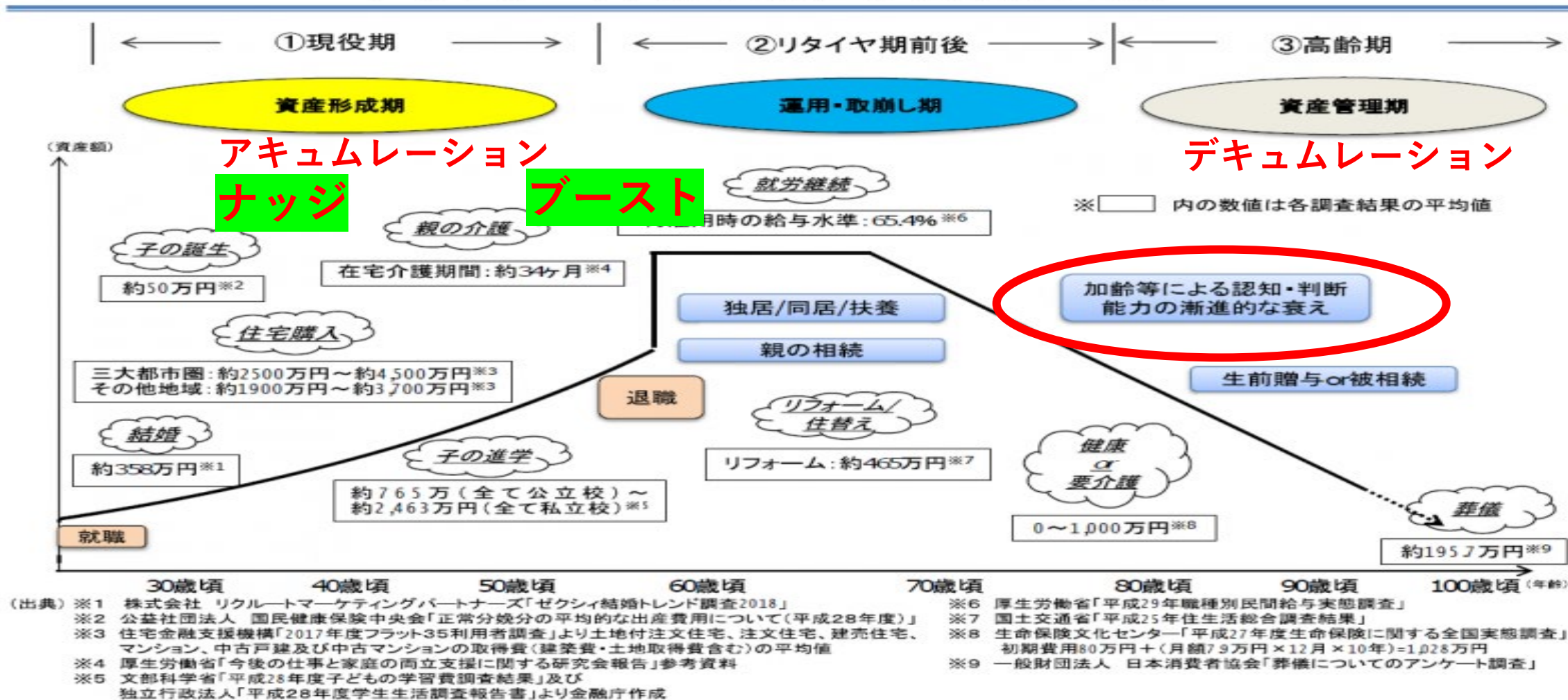
出所：Money & Pensions Service “The UK Strategy for Financial Wellbeing 2020-2030”(2020) 1 ページの図を年金シニアプラン総合研究機構において仮訳

- 1：金融面での健康な国家：個人、コミュニティ、企業、経済
- 2：資産と年金を使いこなす。
- 公的年金と私的年金の計画的な準備  
(Pension Wise)
- 3：5つの目標

# Financial Wellbeing

金融庁市場ワーキンググループ資料

## ライフステージに応じて発生する費用等の例



# 神経経済学からのアプローチ

(駒村 (2021) より)

## 加齢と認知機能の関係

## 1：正常加齢による認知機能の低下

→ 腹側線条体の「注意刺激」

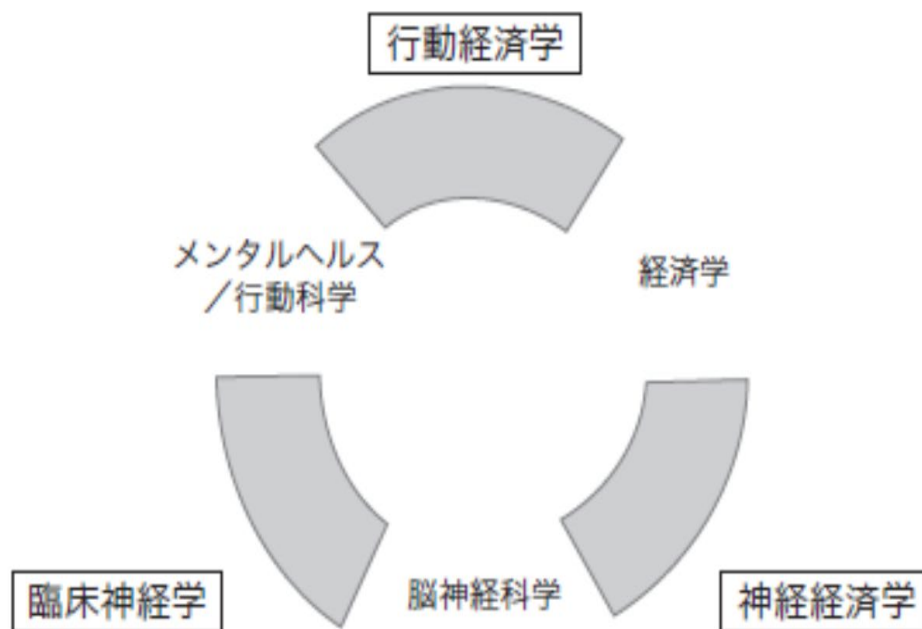
または「**情報処理**」の要求が高い場合に発生する。（**神経経済学**）

→複雑な資産運用に課題

2：認知症、特にその多数を占めるアルツハイマー病に関連する認知機能の問題→**記憶の符号化、統合化および検索**に関連する内側側頭葉領域における問題発生とされる（Hedden and Gabrieli [2005] および Buckner [2004] 参照）。

→ 日々の資産管理に課題

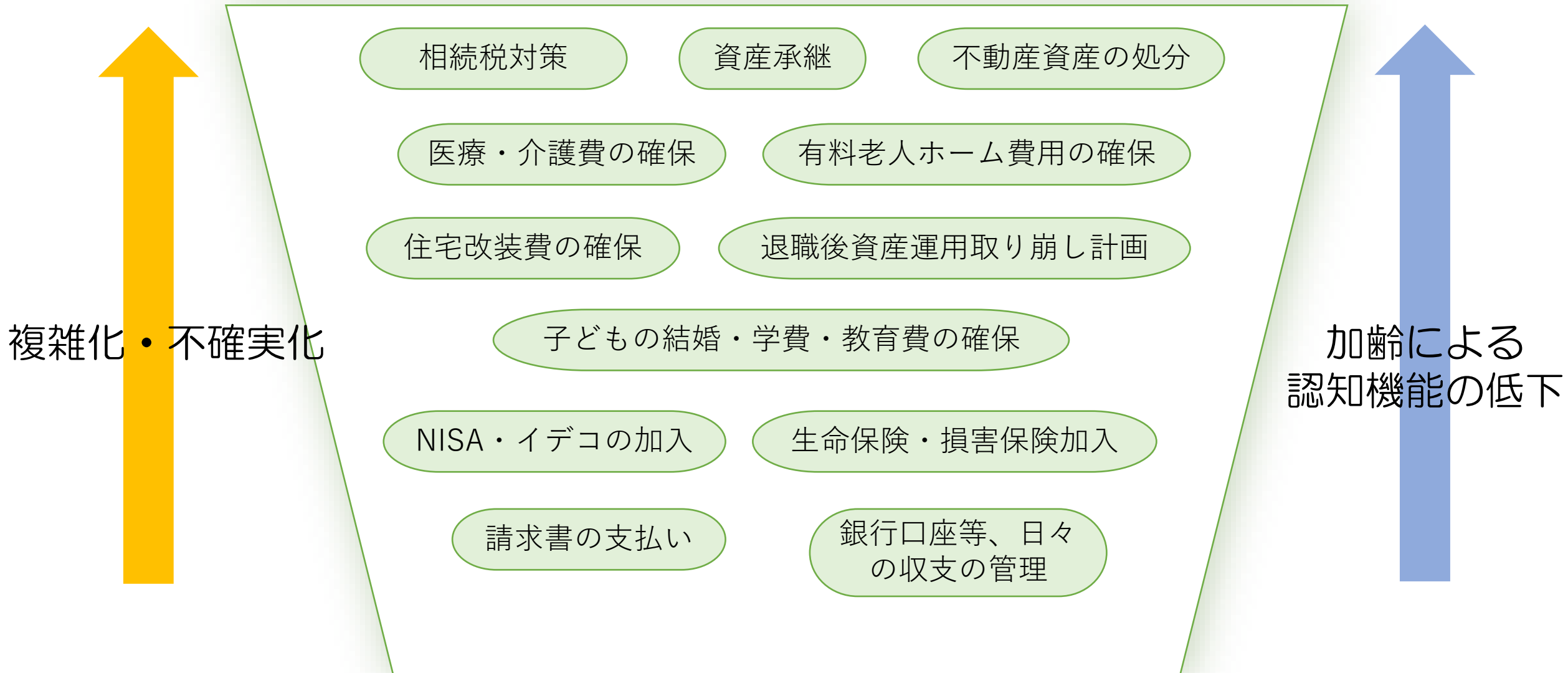
図表3 経済学、行動経済学、神経経済学の関係



(出所) Politser [2008]

# 資産管理・運用を巡る年齢の不都合な真実（不都合な逆台形）

年齢とともに、複雑・不確実な対応（そして金額）が増えるが、認知機能は逆に低下する

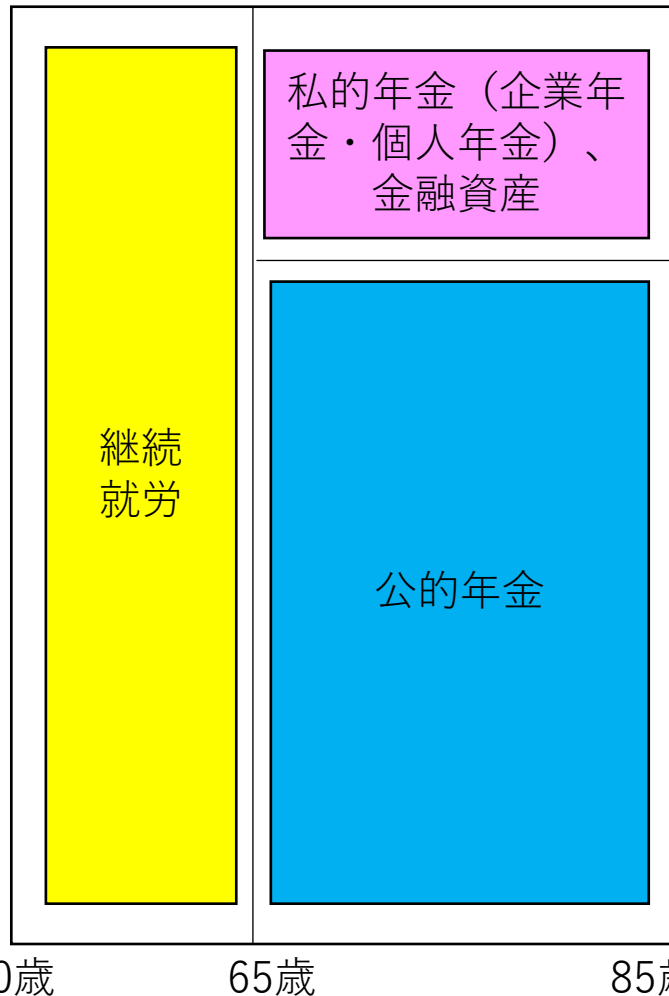




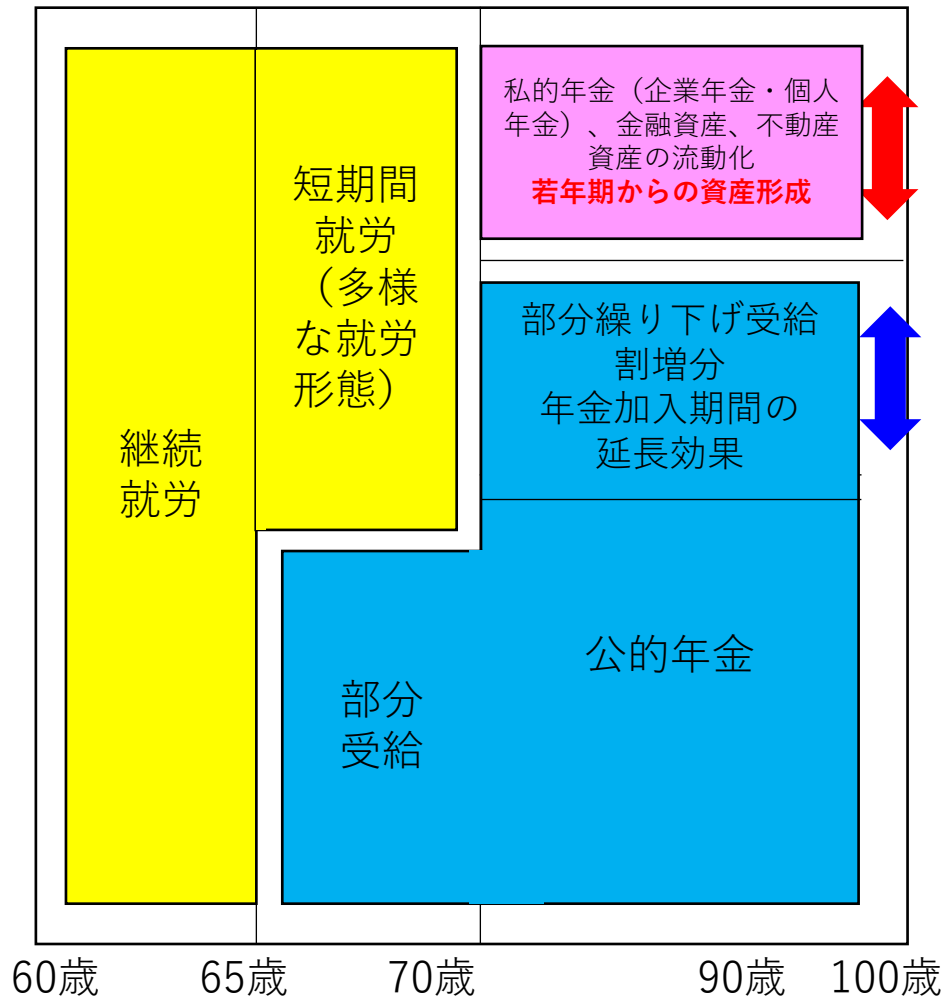
# 寿命の伸長と公的年金の新しい役割分担

1. 現在：寿命80-85歳時代：「労働→公的年金＋資産運用・取り崩し」（「**上乗せ型**」）
2. 将来（案1）：就労期間の長期化→部分就労＋部分年金→繰り下げ公的年金＋資産運用・取り崩し「**ミックス型**」
3. 将来（案2）：65-75歳を就労と個人金融資産の取り崩しでしのぎ、75歳以降は繰り下げ年金で生活する（75歳以降の長寿リスクを公的年金が引き受ける。「運用寿命と寿命のギャップ」を伴う完全「**継投型**」）

【現在上乗せ型】



【案1 ミックス型】



【案2 継投型】

